



# 京都工業会 ニュース

基本理念 -21世紀を担うモノづくり集団-  
京都からモノづくりイノベーション

2025 No.424

## 2025年 海外(イタリア)産業視察団..... 2~8

~再生可能エネルギー&イノベーション都市視察~

今年度は、研究開発や製造業の分野で先進的な取組が行われ注目を集めているイタリア共和国を中心に訪問し、同地域で活躍する企業等を視察しました。

- ・ 団長所感 ・ 副会長所感、 ・ 参与所感、 団員名簿、 視察日程
- ・ 団員所感 ・ 視察概要



ST Microelectronics社



3SUN S.r.l社

## イタリア及びシチリア島の経済産業動向 ビジネスセミナー..... 9

## 2025年 国内(北海道)産業視察..... 10

毎年恒例の国内産業視察では北海道を訪問し、「Rapidus(株)IIM-1」「ミツミ電機(株)半導体事業部 千歳事業所」「日本CCS調査(株) 苫小牧実証試験センター」「トヨタ自動車北海道(株)」にて先進的なモノづくりの取組を視察しました。



## 会員企業トップにインタビュー〈42〉JOHNAN(株)..... 11

~一人ひとりの希望を実装してまわる。JOHNAN(株)のモノづくり~



第42回目は、JOHNAN(株) (宇治市)を訪問。モノづくりの様々な場面での課題解決にチャレンジするJOHNAN(株)の代表取締役社長兼CEO 山本 光世 氏にお話を伺いました。

◀代表取締役社長兼CEO 山本 光世 氏

### 事業活動報告

#### 白鷺クラブ..... 9

- 三共電機(株) 訪問・見学会
- 本会首脳・材木新副会長との懇談
- メンバー企業・(株)山岡製作所 訪問

#### 京都工業クラブ..... 12

- 「トランプ政権と国際情勢~今後の日本への影響~」
- 「2025年の最新技術トレンド」
- 「わが国の金融経済情勢と今後の見通し」

#### 環境人材育成講座..... 12

#### 生成AI明日から活かせる業務活用術 ..... 13

#### サイバーセキュリティ対策セミナー 2025..... 13

#### B to Bでも活用できるブランディングセミナー... 13

#### ゴルフ同好会(KIG)だより ..... 13

#### 外国人材採用研究会 (エンジニア編) ..... 15

### シリーズ 魅力ある職場づくり~会員企業の取組紹介~ その⑩

#### (株)積進..... 14~15

令和6年度会員意見調査においても、『当面の経営課題』として多くの企業が「人材不足への対応」を挙げられました。今回も引き続き、社員の確保と定着に欠かせない要素の一つである“魅力ある職場づくり”をテーマに取り上げ、ご紹介します。

#### 叙勲の栄..... 16

#### 京都府産業功労者表彰 御受彰 ..... 16

#### 京都中小企業技術顕彰 御受彰 ..... 16

#### 新入会員ご紹介..... 16

#### 訃報..... 16

# 2025年 海外(イタリア)産業視察団 報告

## イタリア産業視察 所感

2025イタリア産業視察団 団長 (公社)京都工業会 会長 村尾 修



京都工業会「イタリア産業視察」団長として10月11日から18日にかけて、イタリア・シチリア島を中心に訪問しました。本視察は「再生可能エネルギー&イノベーション都市視察」をテーマに、現地企業・大学・政府機関との交流を通じ、今後の企業経営や産業政策の参考とすることを目的に実施しました。

参加者24名は、初日のトルコ・イスタンブールを経由し、シチリア島のカタニア、パレルモ、最終地ローマまでを巡り、各地で貴重な学びと交流の機会を得ることができました。

視察はイスタンブールから始まり、アヤソフィアやブルーモスクにて東西文明の融合を肌で感じました。ヨーロッパとアジアをつなぐ地理的・文化的要衝としての存在を体感しつつ、私たちはイタリア・シチリア島へと向かいました。

地中海の要衝・シチリア島は、古代から多様な文化が交錯してきた歴史の島であり、その多様性と包容力が人々の気質や都市の景観にも息づいていました。首都ローマとは異なる穏やかな時間の中に、再生可能エネルギーや先端技術の集積地としての新しい息吹も感じられました。

最初の訪問先であるST Microelectronicsでは、欧州最大級のSiC半導体製造拠点を視察しました。再生可能エネルギーや電動車向けのパワーデバイス開発における最先端技術を見学し、同社の技術革新力とサステナブルな製造の取組、そして欧州半導体法に基づく国家的支援体制の大きさを実感しました。

次に訪問した3SUNでは、太陽光パネルの新世代技術「CORE-H」や、欧州内のサプライチェーン確立をめざす大型投資について説明を受けました。国内シェアは約20%にとどまるものの、経済安全保障の観点から新しいテクノロジーへの積極投資を通じて自国製品にこだわる姿勢が印象的でした。

また、3SUN にエネルギー供給をしているNippon Gasesでは、日本企業の技術と信頼が現地経済に貢献している姿を見ることができ、心強く思いました。

翌日にはカタニア市庁舎を訪問し、現地行政および企業・大学との意見交換が行われました。市当局に加え、シチリア科学技術パーク、Xenia社、ELMI社、MDB社、SATグループ、そしてカタニア大学から代表者によるプレゼンテーションが行われ、都市政策や研究開発、デジタル技術、人材育成など、幅広い取組が紹介されました。産・官・学が密接に連携して地域経済の活性化を

進める姿は、持続可能な都市づくりの好例として大いに参考になりました。

続くパレルモでは、シチリア州政府およびパレルモ市を訪問し、州と市の経済政策や再生可能エネルギー推進策、企業誘致に向けた取組について意見交換を行いました。地域の産業構造転換を支える政策フレームのもと、スタートアップ支援やイノベーション促進を重視した施策が展開されており、行政の強いリーダーシップが印象的でした。

また、パレルモ大学では、ライフサイエンスおよびマテリアルサイエンス分野の研究ラボを訪問し、生体材料の生産や特性評価などの研究について説明を受け、地域と連携して次世代人材育成を進める姿勢に共感を覚えました。

現地での企業・大学・政府機関の訪問を終えた後には、各地の文化や街並みを巡る機会も得ました。シチリアではモンレアーレ大聖堂やマッシモ劇場など、宗教と芸術の調和に触れる貴重な体験ができました。最終地ローマでは、日本国大使公邸にて鈴木特命全権大使からイタリア経済情勢について説明を受けました。エネルギー政策やデジタル化の課題、南部経済圏の振興策など、現地の最新情勢を伺う貴重な機会となりました。続いてイタリア企業省を表敬訪問し、同省が推進する投資促進政策や大型投資支援の取組について説明を受けました。特命全権大使から伺った経済情勢とあわせ、産業基盤強化と地域振興に向けた国家的な方向性を理解する上で、有意義な訪問となりました。

その後の市内視察では、バチカン市国のサン・ピエトロ寺院等を訪れ、歴史遺産の保存と都市の機能性が見事に調和していることを実感しました。特に2025年はカトリックにおける「聖年」にあたる節目の年であり、この期間にバチカンを訪れ、「聖なる扉」が開かれたサン・ピエトロ寺院を訪問できたことは、25年に一度の特別な巡礼の年に立ち会うという大きな感動を覚える体験でした。信仰と歴史が交錯するこの神聖な空気の中で、欧州の歴史と信仰に根ざした文化の奥深さを改めて実感することができました。

今回の視察を通じ、イタリアが誇るデザイン・技術・地域産業の結びつき、そして新しいテクノロジーへの真摯な取組を間近に見ることができました。シチリアにおける産・官・学の連携による研究開発やスタートアップ支援は、日本の地域産業振興にも多くの示唆を与え、各社の経営にも活かせる学びが得られました。

終わりに、視察団の皆様、訪問先でご対応いただいた皆様、そしてこの視察を支えてくださった京都工業会事務局ならびに関係各位に心より感謝申し上げます。

## イタリア産業視察 所感

(公社)京都工業会 副会長 上田 輝久



京都工業会のイタリア産業視察に参加しました。私自身は、2023年のスペイン・モロッコ、2024年のアイスランド・フィンランドに続き、3回目の海外産業視察となりましたが、今回も自社の出張では体験できないような非常に貴重な機会となりました。今回、特に印象に残ったのは、シチリア島を

中心とした「SiC半導体」と「太陽光パネル」の製造工場の見学で、国が中心となって中国依存度を減らしていくという経済安全保障の観点で、国による大きな投資に繋がっているという点です。

シチリア島カタニアにあるSTマイクロエレクトロニクス社は、SiC半導体事業に注力し、原材料から完成品までの製造工程を一貫して行うことを目的として、世界初の完全垂直統合型の製造施設を建設しており、研究開発から基板製造までを単一の拠点で完結させている工場を見学しました。この工場では、将来的にEVや急速充電ステーション、再生可能エネルギーなどの用途に向けた高性能パワー半導体の需要増に対応する挑戦的取組が印象に残りました。

次に、イタリアのエネルギー企業であるエネル・グリー

ンパワー社の子会社3SUNを見学する貴重な機会を得ました。カタニアに建設されたこの工場では、欧州最大の太陽光パネル・ギガファクトリーを目指して、高性能な太陽電池とモジュールの生産拡大に取り組んでいました。この工場を案内してくれた勤続15年のダビデ氏の熱意に満ちた説明に圧倒される中、独自に開発をしたというヘテロ接合技術や広大な製造現場と数多くの大型設備が印象的でした。

また、カタニアやパレルモの地方政府・大学関係者のプレゼン、研究センター見学など中身が濃く、体力的にも毎日1万歩を超えて歩くハードな視察でしたが、視察団メンバーの構成も初参加とベテランのバランスが取れており、人的面でも非常に良い交流の場となりました。

視察の合間には、村尾会長の好判断により、乗継時間を上手く活用して、ユネスコ世界遺産であるトルコ・イスタンブール旧市街の歴史地区にあるガラタ橋、ブルーモスク、アヤソフィアなど、ローマ帝国、ビザンツ帝国、オスマン帝国という3つの大帝国の首都として発展してきた歴史的建造物と各種秘話も名ガイドのオキアイ氏(奥様は日本人)の解説で理解を深めることができました。本視察を企画してくれた京都工業会や近畿日本ツーリストの皆さん、視察団メンバー、我々を受け入れてくれた鈴木特命全権大使や現地の方々に深く感謝いたします。

## イタリア産業視察 所感

(公社)京都工業会 副会長 山田 義仁



今回、京都工業会の海外視察として、シチリアとイスタンブールを訪問しました。

私自身、シチリア島を訪れるのは初めてであり、南イタリアの文化やその成り立ちを現地で体感する貴重な機会となりました。また、南イタリアの産業構造や人材育成の仕組みを実際に確認することが

でき、大変有意義な視察となりました。

シチリアは地中海の中心に位置し、古代ギリシャ、ローマ帝国、ビザンツ帝国、アラブ、そしてノルマン人など、数多くの支配と交流を経て独自の文化を築いた地域です。その歴史的背景は、単なる文化的多様性にとどまらず、現在の産業や社会の柔軟性にもつながっていると言えます。多様な価値観を受け入れる風土が、異なる分野・立場の人々を結び付け、産学官連携を支える基盤となっていました。

視察先のSTマイクロエレクトロニクス、3SUN、Nippon Gasesでは、現場の技術者やマネジメント層から強い自信と情熱、そして誇りが伝わってきました。いずれの企業も、高度な技術力を基盤に、今後さらに成長し

ていく確信を持って取り組んでいる姿が印象的でした。

また、大学など教育機関の水準も高く、政府・公的機関が企業と密接に連携しながら研究開発や雇用政策を進めている点も注目されます。政策と現場が一体となって地域の発展を支えており、シチリア全体に前向きな活力がみなぎっていました。

地中海の中心という地理的優位性も大きな強みです。欧州・アフリカ・中東のいずれにもアクセスしやすい立地は、物流・人材・技術のハブとしての可能性を広げています。地政学的にも安定しており、地域の持つ潜在力と実行力が、この不透明な時代においても着実な成長を支えていることを確認できました。

今回の視察を通じ、シチリアとイスタンブールの双方に共通して見られたのは、「多様性を成長力に変える力」です。文化や民族の違いを超え、異分野間の協働を実現している姿勢は、日本の産業界にとっても多くの示唆を与えてくれます。今後は、この学びを自社や業界の連携強化に生かし、グローバルな視点から持続的な成長を追求していきたいと考えています。

最後に今回の視察を企画・運営してくれた京都工業会、近畿日本ツーリストの皆さん、視察中に大変お世話になった村尾団長はじめ団員の皆さんに感謝申し上げます。

# イタリア産業視察 所感

(公社)京都工業会 参与 垣内 永次



京都工業会の海外産業視察は、ユニークな地域やテーマが特徴的であり、またモノづくりの観点からの企画も秀抜で、他の京都経済団体の海外視察とは一線を画するものです。今回も、東西文化と歴史の結節点であるイスタンブールを経由して、地中海の中央に位置するイタリア・シチリア島の産業を視察するユニークなものでした。

イスタンブールへのフライトは、黒海上空を飛び、機内で眺めるフライトマップにはクリミア半島、キーウなどが表記され、ロシアによるウクライナへの侵略戦争の隣接地である事を想起させられました。

郷里の和歌山、串本沖にて、1890年に座礁したオスマン帝国の軍艦エルトゥールル号遭難救助の話は、トルコの皆さんには大変有名な話で、その恩返しとなった1985年のテヘラン邦人救出事件は日本人が忘れてはならない出来事です。今回、通訳の方から、2006年に小泉首相(当時)が当時の元機長に謝礼に訪問したと聞き感涙しました。

数時間のイスタンブール滞在ではありましたが、正に東西文化の結節点を目の当たりにし、IHIがアジアと欧州を繋ぐ吊り橋を2基も建設したと知り、誇らしく思えました。

シチリア島は、これまで馴染みのない場所でしたが、立地から考えて当然とはいえ、歴史の全ページに登場するかの様な場所だと知り驚きました。

最後の夜に訪問したイタリア日本国大使館の鈴木哲特命全権大使から、イタリアに於ける南北格差の話聞いて、シチリアで見聞したことが良く腹落ちしました。即ち、イタリアの経済力は歴史的に見ても北部に偏っており、それがもたらす経済格差や分断が19世紀から起こっているとの事でした。経済力格差は、イタリアに限らず古今東西の共通した課題であり、現在のイタリア政府も南部への経済奨励策(助成金)などの施策を展開しています。

初日に訪問したSTマイクロエレクトロニクスは、欧州を中核とする半導体の大手メーカーであり、当社製品も世界各地で使っていただいています。今後のEV市場などを展望したSiC半導体の生産をカタニーヤで行っており、新設の量産工場を拡張中でした。主要顧客の欧州自動車関連産業が中国との競合激化のなか、今後の成長に期待したいと思います。中国との競合は、訪問したENEL社傘下の3SUN社での太陽光発電パネル生産事業に於いても同様であり、より深刻です。

メローニ首相就任後に、中国が進める「一帯一路」から離脱したイタリア企業が直面している中国企業との競合は、日本企業にとっても対岸の火事ではないと考えます。アジアと欧州の結節点を経由しシチリア島からローマへの視察は、正に東西の文化や、宗教の変遷、現在の経済的競合の現実を突きつけられた視察でもありました。今回も村尾団長をはじめ視察団の皆さん、工業会事務局の皆さん、近畿日本ツーリストの皆さんに大変お世話になりました。感謝申し上げます。

## 2025年 イタリア産業視察団 団員名簿

<敬称略>

団長	村尾 修	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション	取締役会長
	上田 輝久	(株)島津製作所	代表取締役会長
	山田 義仁	オムロン(株)	取締役会長
	垣内 永次	(株)SCREENホールディングス	特別顧問
	本永 治彦	(公社)京都工業会	専務理事
	小倉 勇	(株)たけびし	取締役会長
	門脇あつ子	大阪ガス(株)	執行役員 京都地区統括支配人
	増山 晃章	星和電機(株)	代表取締役社長
	御子神 隆	三菱ロジスネクスト(株)	シニアアドバイザー
	島田 理史	(株)菊水製作所	代表取締役社長
	澤田 守成	(株)ボックス・サワダ	代表取締役会長
	村上 義	(独法)日本貿易振興機構	京都貿易情報センター所長
	足立真理子	京都府商工労働観光部	産業振興課参事
	藤本 清敏	京都市産業観光局	スタートアップ・産学連携推進室 産学連携課長
	岡本 俊一	日本通運(株)	執行役員 関西アカウントセールス部担当
	小島 新也	オムロン(株)	取締役室 会長秘書
	椎葉 隆代	(株)竹中工務店	執行役員 設備設計・エンジニアリング担当
	杉下 豊	ニチコン(株)	NECST事業本部 事業戦略室 室長
	高田 篤志	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション	秘書室 担当部長
	田中 航	(株)島津製作所	秘書室 マネージャー
	辻 嘉明	(株)きんでん京都支店	常務執行役員 支店長
	古澤志津夫	三幸総研(株)	代表取締役社長
	光岡 朗	(株)川島織物セルコン	代表取締役社長
	西岡 誠司	(公社)京都工業会	理事・事務局長

## 視察日程

日次	月 日	摘要
1	10月11日(土)	トルコ航空にてイスタンブールへ
2	10月12日(日)	イスタンブール市内視察 空路イタリアシチリア島カタニーヤへ
3	10月13日(月)	<訪問先> ・ST Microelectronics ・エネル・グリーンパワー 3SUN S.r.l. ・Nippon Gases
4	10月14日(火)	<訪問先> ・カタニーヤ県庁およびカタニーヤ市役所 ・カタニーヤ大学 ・シチリア 科学技術パーク及び入居企業 4社 午後、パレルモへ移動
5	10月15日(水)	パレルモ市及び近郊視察 <訪問先> ・シチリア州政府およびパレルモ市役所 ・パレルモ大学
6	10月16日(木)	午前、パレルモ市内視察 空路、ローマへ ・日本国大使表敬訪問・懇談(大使公邸)
7	10月17日(金)	<訪問先> ・the Ministry of Enterprise and Made in Italy (MIMIT) ローマ市内視察 空路、イスタンブールへ
8	10月18日(土)	関西空港へ・着後、解散

## 視察団所感

(株)たけびし 小倉 勇

イタリア南部カターニアではSTマイクロエレクトロニクス社などへ、イタリア政府やEUから次世代半導体の戦力的投資が進められていました。イタリアの成長率はコロナ以降、堅調に推移しており、2024年は0.7%とやや失速したものの、物価と雇用は安定。GDP成長率も3年連続で仏・独を凌駕しています。

ローマでは鈴木特命全権大使からイタリア初の女性首相、メローニ首相の手腕を拝聴し、MIMITにも訪問して、イタリア進出に関するインセンティブなどの分かりやすい説明をいただき勉強になりました。

大阪ガス(株) 門脇あつ子

なぜ、シチリア島で先端半導体や太陽光パネルを作るのか、経済安全保障上の国策支援、地中海を通じた交通の便の良さなど、産業視察に行く前と後では、その背景理解に雲泥の差があります。毎日一万歩以上歩いて、百聞は一見に如かずを実感しました。

星和電機(株) 増山 晃章

日本より一足早く、2022年に初の女性首相メローニ氏が就任。48歳、美人で右派ということもありトランプ大統領にも気に入られ、関税交渉でも有利な条件を引き出していますが、シチリア島への先端企業誘致や、一帯一路政策による中国企業の“ピレリ”経営権奪取を政府介入で阻止するなど経済安全保障にもたけているようです。果たして日本の新首相やいかに。

三菱ロジスネクスト(株) 御子神 隆

イタリア南部は技術的に遅れているとの印象がありましたが、シチリアで先端半導体や最新太陽光パネルの工場、大学研究施設を視察し認識が一変しました。京都工業会ならではの大使館訪問では、家庭教育と環境がデザイン力に影響するとの説明を受け、街に自然に存在する歴史的遺跡の力を再認識。

伊国の現状を理解するうえで非常に有意義な視察でした。



▲ウェハー製造工場 (ST Microelectronics) の見学

(株)菊水製作所 島田 理史

今回の海外視察は、シチリア島から参加しました。

今回の視察でシチリアの農業、観光業、漁業が盛んであるイメージからヨーロッパにおいてアフリカへの事業展開として重要な地理的条件を持つ島であることへの変換が行われました。やはり固定的なイメージを現実に変えるうえで、現地に行くことは有効な手段だと改めて感じ、本視察に参加してよかったと思いました。

(株)パックス・サワダ 澤田 守成

今回イタリアシチリア島カターニャ・パレルモの産業視察に参加し、初めて訪れた同島は、農業・漁業が中心と思っておりましたが、半導体や太陽光パネル等の最先端技術の発展や産学連携の推進には力を注いでおられました。まさに芸術・文化・先端技術の融合が素晴らしく印象に残りました。

まだまだイタリア北部との格差は大きく開いているようですが、今後の発展に期待するところです。

(独法)日本貿易振興機構 村上 義

シチリア島には初めて足を踏み入れたのですが、歴史や社会背景などがイタリア本土と異なること、政府としてもEU補助金を活用して戦略的に投資を行っていることなど、初めて知ることが多く大変勉強になりました。

京都府商工労働観光部 足立真理子

シチリア島は「過疎化」、ローマは「オーバーツーリズム」といった課題に直面しつつも、伝統産業や観光資源を基盤としながら、EUの集中的な投資を通じて成長分野の産業集積を推進しており、産学連携による持続的な人材育成や外資誘致に強い熱意を感じました。

京都市産業観光局 藤本 清敏

参加前は、イタリアしかもシチリア島に対して「先端産業」のイメージがまったくなかったのですが、地理上の位置や歴史的な背景をあわせて学ぶことで、政府が戦略的に産業支援、人材育成を行っていることが分かりました。京都市として初めての参加となりましたが、工業会の皆様に暖かく受け入れていただき、充実したプログラムに参加することで、多くの知見やご縁を得ることができました。

## 日本通運(株) 岡本 俊一

この度のイタリア産業視察団においては、大変多くのことを学びました。

イタリアは半導体関連産業への投資が進んでおり、一人当たりGDPも日本を上回っています。

学ぶべき点は学び、日本の成長に寄与したいと思えます。

## オムロン(株) 小島 新也

今回、シチリア視察を通じて、地中海の多様な歴史と文化が現在の産業や人材育成の基盤となり、力強い成長を支えていることに驚きました。学びの多い視察となりました。

## (株)竹中工務店 椎葉 隆代

今回イタリアを訪れ、圧倒的な歴史遺産と最新技術の対比の中に、京都との相似性を感じる事が出来ました。共通しているのは、歴史、挑戦心、誇り、そして意地。

各訪問先での会話を通じて、産官学一体となった研究活動と超熱心な投資誘導活動は、見習うべきものがあるように感じました。

## ニチコン(株) 杉下 豊

初めて参加させて頂きました。シチリア島のカタールニャからパレルモ、更に首都ローマと移動。カタールニャでは、STマイクロエレクトロニクスや3SUNの工場見学をしました。いずれも、欧州での事業を進めるべく、熱意を感じました。又、政府・地方政府・業界団体もエコシステムを構築すべくサポートしています。

複数の企業が関連してビジネスを構築してゆくことの重要性を改めて感じました。

## (株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 高田 篤志

シチリア島ではエネルギーや技術の現場を訪ね、新しい技術を地域発展につなげようとする現地の熱意(熱い説明)や工夫を間近に感じました。

聖年を迎えたバチカン市国で訪れたサン・ピエトロ寺院も印象的で、信仰と歴史が静かに調和する荘厳な空気を感じ、視察の締めくくりにあつた瞬間となりました。



▲Xenia Progettiによるプレゼンテーション

## (株)島津製作所 田中 航

イタリアは国家復興計画によりデジタル化やGXへの投資が活発で、優れた大学・研究機関と企業が連携した各種プロジェクトや人材育成への取組が印象的でした。

個人としては事前の情報収集の重要性の再認識および異文化交流の体験が大きな収穫となりました。

## (株)きんでん京都支店 辻 嘉明

カタールニアで、通常見られない半導体製造現場や高効率太陽光パネルの製造プロセスを熱心な解説の下で視察でき、大いに印象に残りました。

パレルモ、ローマでの市・州・政府関係機関での投資呼び込みプレゼンには大きな熱量があり、産官学連携での能動的な成長戦略の実践は、見習うべきと感じました。

## 三幸総研(株) 古澤志津夫

まずはイタリアの街並みや教会を見学して、伝統文化や芸術の観点からも「ものづくり・デザイン」の国を強く感じました。

当社は太陽電池の封止材を生産していますが、今回の視察で太陽電池の製造メーカーを訪問することができました。その中で、シャープ(株)から技術提供を受けたとの話もあり、案内担当者が情熱的であったことと相まってとても印象的でした。

## (株)川島織物セルコン 光岡 朗

初めてのシチリア訪問、農業、観光の南イタリアというイメージで参加したのですが、実態は少し異なりEU投資を活用した産業の地域集積や、産学連携も活発に進められている反面、歴史的建造物の保全にも取り組みを進められている状況は、京都にもあてはまる部分も多く貴重な体験でした。



誌面の都合により、皆様から頂いた参加者及び事務局への謝意の掲載は控えさせていただきます。

お寄せいただいた温かいお言葉とお気持ちに、心より感謝申し上げます。

## 2025年 海外(イタリア)産業視察概要

10/11~18 8日間

イタリア半島の西南、地中海のほぼ中央に位置し、紀元前から様々な勢力が覇権を競い合った地で、古代ギリシャ、ローマ、アラブ、ノルマンなど多様な文明の影響を受けて独自の融合文化を持つシチリア島を訪問。同島で進んでいる再生可能エネルギーやナノテクノロジー、材料科学に関する研究や製造現場の状況を視察するとともに、ローマではイタリア経済と産業の現状と展望について在イタリア日本国大使公邸でヒアリングし、意見交換をした。

## 1. カターニアのモノづくり動向

カターニア市は、シチリア島では2番目に大きい人口約32万人の都市で、イオニア海に面し、北方にはエトナ山がそびえている。

テクノロジーと研究開発が盛んな都市で、特にカターニア大学が中心となり、ナノテクノロジーや半導体、エレクトロニクス分野での研究がEUや国の支援を受けて盛んに行われている。

## ■10月13日(月) カターニア

## ◇ST Microelectronics社

カターニア工場長 Francesco Minerva氏

欧州最大級のSiC(シリコンカーバイド炭化ケイ素)半導体を製造し、また多様な研究も行っている工場を訪問。SiC粉末からウェハー製造まで最先端技術を導入しており、人工ダイヤモンドのワイヤーでカットする装置なども間近に見学。他にも環境保全を意識したサステイナブルな製造装置が、広い建屋内にずらりと並び稼働している姿も圧巻だった。また、現在は中国とモロッコで行っているパッケージを当工場で行うべく新社屋を建設中だった。

## ◇3SUN S.r.l.社

最高技術責任者 Cosimo Gerardi氏

イタリアの世界的大手電力会社EnelとST Microelectronics、シャープの合弁会社で、欧州向け太陽光パネルを製造している自動化が進んだ現場を視察。製造装置には中国製のものが多数使われていた。現在の太陽パネル

生産量は創業当初(2010年)の14倍の1万4千個/日で2種類のパネルを生産している。中国企業が圧倒的なシェアを占める欧州太陽光パネル市場で、新世代技術による極薄でかつ高品質と30年保障を武器に、シェア拡大を狙っており、国の支援を受けているとの説明を受けた。

## ◇NIPPON GASES社

部長 Giuseppe Polverino氏、

部長 Marco Marecci氏

日本酸素HDの子会社で、産業用酸素、窒素、アルゴン、ヘリウム等のガス供給会社で、3SUN社の敷地内に、同社に太陽光パネル製造に使用する窒素と水素を供給する施設の外観を見学。製造している窒素と水素について、また、管理されており作業員が少ない工場で全てがリモートコントロールされている状況等の説明を受けた。

## ■10月14日(火) カターニア

## ◇Catania Prefecture Government &amp; Catania City Government

カターニア県とカターニア市の代表者から歓迎の挨拶と地域産業概要の簡潔な説明があった。

## ◇The Science and Technology Park of Sicily (PSTS)

理事長 Sebastiano Di Stefano氏

シチリア地域の研究、イノベーション、技術移転などを通じて地域の競争力を高めるため、地元の大学、研究機関、企業、行政が連携して設立したコンソーシアムについての概要説明を受けた。

## ◇Xenia Progetti s.r.l.社(スタートアップ)

CEO Giuseppe Sorbello氏

1990年創業以来、ITC技術でヘルスケア、工業、安全、サイバーセキュリティ、文化遺産分野に展開している。

地域の主要研究センターや大学とのネットワークや、シチリア島にあるコンソーシアムへの参加を通じて、最先端技術に関するノウハウを獲得し、革新的なソリューションを開発する多数の研究開発プロジェクトに関わっているとの説明があった。

## ◇ELMI社(スタートアップ)

ビジネスアナリスト Alfio Mazzaglia氏

紙の文化からデジタルへと変えるため1985年の創業で40周年を迎えた。システムインテグレーターとしてIT分野で事業を展開。企業ITサポートのため、IBM、SAP、Lenovo、Microsoftと技術パートナーシップを結び行っているサイバーセキュリティ事業の説明を聞いた。



▲広大な太陽光パネル製造工場(3SUN)の見学

#### ◇MDB Advisors社 (スタートアップ)

CEO Marco Di Bella氏

産業の持続可能性、メンテナンスエンジニアリング、エネルギー分野での統合技術コンサルティングを展開する会社で、データ等のデジタル化に基づく脱炭素化に向けたサステナビリティ経営に関する事業を展開している。2026年には日本に進出予定。

#### ◇Siciliana Articoli Tecnici (SAT) 社 (スタートアップ)

ゼネラルマネージャー Alpo Di Leo氏

1987創業し、高純度フッ素ポリマー部品およびウェットベンチ機器(半導体に用いられる洗浄装置)を製造。半導体向けウェットベンチとウェットプロセスシステムでは、完全自動化をオプション製造し、韓国・中国・シンガポールへの輸出をするほか、カシオともパートナー契約を締結している事業内容の説明があった。

#### ◇カターニア大学

経済・経営学科

Carmela Elita Schillaci教授、

Maria Cristina Longo教授

電気・電子・コンピューター工学科

Giovanni Muscato教授、Gaetano Patti助教授

1434年創設で、シチリア島最古、イタリアでも13番目に古い、シチリア島内最大規模の大学。

Schillaci教授から大学概要の説明があり、Muscato教授からロボット分野で企業との連携事業等について、Patti助教授からは最新の情報ネットワークやアプリケーション研究と企業との連携について説明を受けた。

また、Longo教授からイノベーション管理、起業家精神、革新的なスタートアップとインキュベーター等について説明を受けるなど、カターニア大学の科学技術や産学連携の状況を伺った。

## 2. パレルモのモノづくり動向

パレルモ市は、イタリア国内5番目に人口が多く約67万人の、シチリア島最大の都市であり、シチリア特別自治州の州都。

パレルモ市は農業やバイオテクノロジーの研究が進んでいる地域である。特に、持続可能な農業技術の開発や気候変動に対応する研究開発が行われている。

### ■10月15日(水) パレルモ

#### ◇Regione Siciliana & Palermo City Government

シチリア特別自治州生産活動地域局 アセッサー

Anna Gullotto氏

パレルモ市生産活動地域局 評議員

Giuliano Forzinetti氏

シチリアでは地域経済振興のため、EUの結束政策基金を活用した格差是正の資金援助を得て、インフラ整備や環境保全など様々な分野におけるプロジェクトを、2014年から7年間にわたり実施した。例えば、地中海の深海を探索する海洋科学研究(IDMAR)やパレルモ臓器移植センター(ISMETT)の運営などのプロジェクトとして行っている。

#### ◇パレルモ大学

Advanced Technologies Network (ATeN) Center

センター長 Gennara Cavallaro教授

1806年創設の公立大学であるが、その中ATeNの研究ラボ棟を訪問し、ライフサイエンスとマテリアルサイエンスの研究ラボを視察。Cavallaro教授から概要説明を受けた後、分子・細胞バイオテクノロジー、生体材料の特性評価などの研究状況を、各ラボを回って所属する研究者や大学院生から説明を受け、アイデアの創出や技術の移転に関する質疑応答を行った。

## 3. ローマ

ローマは、ヨーロッパ域内8位の人口275万人を抱えるイタリアの首都。

### ■10月16日(木) ローマ

#### ◇在イタリア日本国大使館

鈴木特命全権大使

鈴木特命全権大使から歓迎のご挨拶の後、イタリア経済成長の現状やエネルギー、AIをはじめとするデジタル化半導体などの政策の状況などの説明を受けた。加えて経済安全保障面では、EUおよび世界における同国の位置と役割などについてもご解説いただき、イタリアが置かれている立場なども正しく理解を深めることができた。その際、フィレンツェの姉妹都市である京都市に対して、日本の体験学習を希望する子どもたちへのホームステイ受入に関する希望が出された。懇談では、林次席公使、伊藤参事官、佐藤二等書記官も加わり意見交換をした。

### ■10月17日(金) ローマ

#### ◇The Ministry of Enterprise and Made in Italy (MIMIT)

投資誘致活動総局長 Giovanni Savini氏

ミラノを中心とする北イタリアで経済が発展する一方、南イタリアの産業振興が課題であるため、法令改正も含め特別なチームも編成し、企業誘致を推進している。

国内外の大規模投資プログラムの実現を目指しており、特にエネルギー分野では、メローニ首相が獲得したEU復興基金を活用した大規模な投資を計画している。その他、外国企業誘致のため、投資及び投資後の補助金や税制面における優遇措置などの支援策を設けている。



▲イタリア政府の企業・メイド・イン・イタリー省によるプレゼンテーション

## イタリア及びシチリア島の経済産業動向 ビジネスセミナー

日 時：10月3日（金）16：00～17：00

会 場：本会会議室（オンライン併用）

参加者：22名

イタリア産業視察団出発に先立ち団員に加え、広く会員・一般にも参加者対象を広げた標記セミナーを開催。冒頭、ジェトロ京都・村上 義所長にご挨拶いただいた。

講 師：イタリア大使館 貿易促進部部長

Gianpaolo Bruno氏

### イタリア経済事情

イタリアは、産業、技術、農業、観光など多様な分野で世界をリードし、持続可能な開発を重視する国である。地球圧力調整済み人間開発指数（PHDI）ではG7第3位を記録し、高い人間開発と低い環境負荷を両立している。近年はパンデミック後の回復が顕著で、過去10年間の平均成長率は年1.1%を維持、製造業輸出国としても世界第2位の地位を確立している。輸出はファッションや食品にとどまらず、機械、医薬品、精密機器など多様な分野に及び、競争力のある中堅企業群が支えている。G7諸国の中で最も低いインフレ率を維持しつつ、貿易黒字と安定した財政運営を実現している点も特筆される。イタリアは、環境と経済を両立する先進的な製造国家として信頼性を高めており、日本にとってもグリーン技術や産業連携における理想的なパートナーである。

講 師：イタリア大使館 貿易促進部

投資デスクマネジャー 福山 哲郎氏

### イタリアの製造業及びシチリア島の動向

イタリアは、レオナルド・ダ・ヴィンチやガリレオ・ガリレイのような学際的な天才、芸術家、探検家を生んだ国であり、今日でも技術革新と産業の卓越性の基準であり続けている。機械&メカトロニクス（M&M）産業は、国家経済にとって戦略的な分野であり、ヨーロッパで最も競争力がある最先端産業のひとつ。なかでも機械&設備（M&E）は、イタリアの製造業にとって最も重要な産業で、18,100社以上の企業があり、企業数ではヨーロッパ諸国の中で第1位。また、付加価値額（400億ユーロ）、労働力、輸出額でもヨーロッパで第2位にランクされている。

シチリア島では、メッシーナ海峡大橋建設計画が再始動し、マイクロエレクトロニクス産業の発展が期待されている。STマイクロエレクトロニクスを中心に産学官連携によるエコシステムが形成され、風力・太陽光を主力とする再生可能エネルギー開発も進展している。これらは地域再生と持続可能な成長の好例である。

## 白鷺クラブ活動報告

### ●7月例会（第572回）三共電機(株) 訪問・見学会

開催日：7月17日 参加者：15名

中小企業のDX推進を促進するため、経済産業省が優良事例として選定している「DXセレクション2024」認定企業である愛知県の三共電機株式会社を訪問した。社長のリーダーシップの下で展開されているDX推進の取組について詳細な説明を受けるとともに、現場での導入状況を視察し、実践的な学びを得た。

### ●8月例会（第573回）本会首脳・材木新副会長との懇談

開催日：8月5日 参加者：15名

本会副会長に今年6月に就任された日東精工(株)の材木会長を訪ね、懇談会および工場見学を実施した。昭和13年に京都府綾部市で創業した同社は、地域の雇用創出と人材育成を目的に設立され、現在ではファスナー、産業機械、制御システムの分野を展開するグローバル企業へと発展している。創業精神である「誠実・信頼・感謝」を基盤に、持続可能な社会に貢献するモノづくりを続けている。

懇談では、材木会長が提唱する「しあわせ経営」と「絆経営」について紹介された。しあわせ経営では、健康的に働ける職場環境、やりがい、家族の誇り、安全・安心等を重視し、従業員の幸福を追求している。また、「顧客満足度120%」を掲げ、期待を超える提案と製品提供を使命とする姿勢を強調された。絆経営では、従業員、顧客、取引先、地域社会など、すべての関係者と成長を共有することを目指している。

人財育成面では、階層別教育や独自テキストの活用、奨学金制度、障害者雇用、女性活躍推進を積極的に実施している。若手社員には困難な課題に挑戦する場を与えリーダーシップを磨かせている。海外では11か国に拠点を展開し、将来の成長市場としてインドやアフリカを注視している。

また、地域貢献活動としてイベント支援、図書館への寄贈、学校教育協力、環境問題への取組を継続しており、その姿勢は地方創生大臣賞の受賞にも表れている。

材木会長は、「経営者には品格と、明るく楽しく元氣よく臨む姿勢が必要である」と述べ、利他の精神による恩返しこそが持続的成長と社会全体の幸福につながると結んだ。懇談後には工場見学と懇親会も行われ、有意義な学びの場となった。

### ●9月例会（第574回）メンバー企業・(株)山岡製作所 訪問

開催日：9月25日 参加者：34名

(株)山岡製作所（代表取締役 山岡靖尚氏）を訪問し、「人材の育成と採用と未来」をテーマに、滋賀県の若手経営者の会「あさって塾」と合同見学会を開催した。

昭和29年設立の同社は、城陽市の本社を中心に国内外に拠点をもち、高い技術力で金型・装置・部品の製造を行い電子機器や自動車など多様な分野を支えている。講演では、精密加工と一貫生産できる体制による強み、人材育成への積極的な取組、採用を全社の最重要課題と位置づける姿勢などが紹介された。社員の質と数が企業競争力を左右するとの考えが強調され、参加者に大きな示唆を与えた。講演後は工場見学および懇親会が行われ、有意義な交流の機会となった。

9月18日(木)・19日(金)の2日間、村尾会長を団長とする30名で北海道を訪れ千歳市・苫小牧市の4施設を視察した。

## ◆Rapidus(株)IIM-1

(千歳市 資本金：73億4,600万円 従業員数：597名)

ANAクラウンプラザ千歳において、Rapidus(株)東哲郎会長を講師に迎え「半導体産業復活に向けて」と題する講演会を開催した。東会長は東京エレクトロンの社長・会長を歴任し、半導体製造装置業界を長年牽引してきた第一人者である。講演では、日本の半導体産業が1980年代には世界シェア5割を誇ったものの、技術転換の遅れ等により現在は8%にまで低下した現状が示された。その中で、令和4年に設立された同社が、国を挙げた取組として千歳市に世界最大級の最先端工場を建設し、環境配慮型の設計のもと2ナノ技術開発に挑戦し試作に成功したことが紹介された。講演後にはIIM工場建設現場を見学。経済安全保障の観点からも日本の将来を支える重要なプロジェクトであるとの理解を深め、参加者一同大きな期待を寄せる機会となった。



Rapidus(株)東会長

## ◆ミツミ電機(株)半導体事業部 千歳事業所

(千歳市 資本金：200億円 従業員数：2,232名 千歳事業所：490名)

千歳事業所では、ミネベアミツミ(株)の半導体事業部の概要と最新取組について説明を受けた。同社は世界24か国129の生産・開発拠点を有し、グループ全体で約8万4千人を擁するグローバル企業である。



ミツミ電機(株)

ベアリングやアナログ半導体、モーター、センサー、電源など八つのコア分野を軸に事業展開し、各事業間のシナジーを生かして市場を拡大。具体的には、ウィングハンドルやサイドドア開閉システム、高効率ファンモーター、ハイパワー電源、ロボットアームなど、ニッチながら需要の高い製品群を提供している。また、ロボットハンド開発や大阪・関西万博向けスマートライティング、未来の睡眠体験といった先端的な取組も紹介された。施設内のクリーンルームも見学し、世界水準の生産体制を直に確認する貴重な機会となった。

## ◆日本CCS調査(株) 苫小牧実証試験センター

(苫小牧市 資本金：2億4,250万円 従業員数：106名)

製油所の水素製造装置から発生するCO<sub>2</sub>を分離・回収し、地下深部に圧入・貯留するCCS (Carbon Capture and Storage) の実証試験が行われている。圧入井や観測井には温度計・圧力計・地震計が設置され、海底地震計や微小振動測定を含む24時間体制のモニタリングを実施。さらに季節ごとに海洋環境を調査し、CO<sub>2</sub>が安全に貯留されていることを確認している。回収にはアミン法を用い99%以上の高い回収率を実現し、圧縮により体積を300分の1に縮小して地下へ圧入する仕組みを学んだ。世界的にCCSには反対意見も根強いが、苫小牧は17万都市に隣接する立地でありながら受け入れが進んでいる点で注目されている。将来の実用化に向けた重要なモデルケースであり、日本の脱炭素社会実現に資する取組として参加者の関心を集めた。



日本CCS調査(株)  
苫小牧実証試験センター

## ◆トヨタ自動車北海道(株)

(苫小牧市 設立：平成3年 資本金：200億円 従業員数：3,480人)

苫小牧市に拠点を置くトヨタ自動車北海道株式会社を訪問。同社はトヨタの100%子会社として設立され、CVT (無段変速機)、ハイブリッドトランスアクスル、トランスファーといった主要部



トヨタ自動車北海道(株)

品を生産している。工場ではアルミダイキャスト、鍛造、精密加工、組立といった工程を経て製品が生み出され、熟練工の技術と最新設備を融合させた「一台ごとのものづくり」が実践されていることを確認した。さらに、2035年に向けた持続可能な拠点づくりとして再生可能エネルギー活用の方針が示された。また地域貢献活動の一環として、宇宙ベンチャー・インターステラテクノロジズと協業し、ロケット用ターボポンプ試作にも挑戦していることが紹介された。世界に向けて北海道から確かな製品を発信する姿勢は、自動車産業の未来を示す好例であると強く感じられた。

## ■会員企業トップにインタビュー〈42〉

「一人ひとりの希望を実装してまわる。  
JOHNAN(株)のモノづくり」

JOHNAN株式会社	プロフィール
創業：1962年	法人化：1968年
資本金：9,500万円	社員：282人
住所：宇治市大久保町成手1番地28	
業種：スタートアップ新規事業支援、試作・商品化支援、マニファクチャリング支援（製造支援設備・自動化サービス、設備用部品加工、製造受託、製造人材派遣）、修理・メンテナンス支援・商品企画・販売	

## JOHNAN株式会社

代表取締役社長執行役員 山本 光世氏

「モノづくりプラットフォーム企業」として、モノづくりの様々な場面での課題解決にチャレンジするJOHNAN(株)の山本光世社長にお話を伺いました。

## —設立からバブル期まで

1962年に祖父が45歳で創業。松下電子工業(株)（現・パナソニック(株)の半導体部門）の仕事に孫請けし、基板にコンデンサなどははんだ付けする仕事を始め、その後もほぼ100%同社仕事を請け負っている状態が2000年頃まで続きました。



1990年代末頃、人材派遣会社と合弁会社を設立し、モノづくりに関わる人材派遣業にも取り組みはじめました。

## —私が入社した頃

大学卒業後の2000年始めから2003年の夏まで、東京でサラリーマン生活を送っていましたが、当時の当社は、バブル崩壊以降、パナソニック(株)からの仕事が年々減少しておりました。父の兄である2代目社長山本勝が、父・山本高春（3代目社長）と祖父に相談しながら、家電業界での下請け事業に留まらない新たな挑戦をめざしつつ、借り入れ依存の強い厳しい経営をしていた時期でした。

2003年初頭、祖父と父からJOHNANへ入社しないかと声を掛けられ、悩んだ末に夏に入社しましたが、同年2003年11月に祖父が召天しました。

## —入社直後の状況と取組

「このままの経営のやり方では先がない」と痛感し、経営の革新になるようなヒントを世界から学ぼうと決意し、2年間アメリカに渡りMBAを取得し2007年に帰国しました。

間もなく、リーマンショックが到来し、パナソニック(株)の売上割合は約8割まで低下し、かつその売上も年々、ついにはゼロに至るまで急激に減少していました。

## —新たな事業への挑戦

新規事業への挑戦や、独自技術の開発を進めなければ生き残れないという危機感はありましたが、事業の再編

や撤退などで数年間を過ごしました。

大きな転機だったのは社長就任後、間もなく2011年、37歳の時、JOHNANとして初めての企業買収で医療機器と半導体製造装置の事業に参入しました。それ以降、さらに段階的に4社を買収し、また一部の事業は撤退し、事業の多角化を進めました。

## —事業構造の変革推進

現在の主な参入市場は半導体関連・自動車・産業機器・医療機器などとなり、お客様は300社を超えます。また、モノづくりプロセスの観点からは、量産製造の事業モデルから、開発から製造・修理メンテナンスまで一貫したものづくりを扱う、ものづくりプラットフォームへ転換を図りました。開発のみに関わる会社や、量産だけを請負う会社は結構ありますが、当社のように開発から量産、修理メンテナンスまで、どの段階からでも関わられる企業は比較的少ないと思います。

## —経営理念

2010年、社長に就任した直後から、会社の理念体系を整理しておく必要があると考え、若手幹部を中心にディスカッションし、2050年の会社の未来を描くビジョン「一人ひとりの希望を実装してまわる。」を策定しました。お客様一人ひとりが希望しているものを一緒になって考え、満足いただけるようにしたいとの当社社員の想いを込めました。

## —変種変量生産

ビジョンの達成に向けて、変種変量の請負対応力が当社の強みであり、当社ならではのビジネスモデルだと思っています。例えば、試作品を少量製造するときには手組みとなるため、人手が足りない時は当社の人材派遣を利用していただけます。その後、製造数が増えて仕様が固まり、工場内受託まで進めば、生産量の調整も当社で行います。

## —文化と創造

モノづくりを発信していくのに良い場所は、文化のある土地柄の京都だと思っています。京都のモノづくりの重要な要因は“ほんまもん”だと思うのですが、このほんまもんを作るには、モノに対する愛着を埋めこむことも含めたプロセスが大事だと思っています。また、顧客にとってオリジナルであることも重要だと考えています。

これからも、ほんまもとオリジナルを意識して事業に取り組んでいきたいと思っています。

## 第699回 京都工業クラブ

7/18

### 「トランプ政権と国際情勢～今後の日本への影響～」

関西学院大学 総合政策学部 教授  
元外務省外務大臣補佐 渋谷 和久 氏

トランプ政権下で自由貿易推進から「アメリカファースト」へと方針が変わり、対米貿易黒字国に対して一方的な譲歩を求める姿勢が強まった。こうした中、日本も自動車輸出では25%の関税を課されるが、他国より先に決着する方が、リスクが少ないと考える。



今、アメリカは「パナマやカナダを州へ」という領土主義的な「ランドパワー」へと変質。

これに対抗するには、日本と英、EUが連携し、新たな国際経済秩序を構築する必要がある。TPPとEUの連携による新しい貿易機関創設など、日本が主導する形でランドパワーとシーパワーの均衡を図る外交戦略が有効で、こうした静かな動きに注目すべき。

## 第700回 京都工業クラブ

8/22

### 「2025年の最新技術トレンド ～①生成AI搭載デバイス、②次世代の地球観測衛星、③量子コンピュータ、等々、モノづくり企業に求められていること～」

リンカーズ(株) イノベーション推進事業本部 浅野 佑策 氏

①既に、腕時計型や首掛け型などの装着型デバイスへのAI搭載が進み、AIの軽量化が注目。医療、製造、教育分野での応用も進み、音声認識や異常検知など多様な活用が見られる。



②高精度観測が可能な小型衛星の普及やハイパースペクトル技術の進展により、農業や森林管理、水資源、災害監視など多様な分野での実用化が期待される。

③圧倒的な計算能力を有することから、通信や物流、創薬、材料開発など多様な分野での応用が進展。日本の大学や企業も国際競争において存在感を示しており、今後の発展が期待される。

## 第701回 京都工業クラブ

9/12

### 「わが国の金融経済情勢と今後の見通し」

日本銀行京都支店 支店長 上原 博人 氏

わが国経済の現状は、緩やかな回復傾向にある。各国の通商政策等の影響を受けて、当面の先行きは海外経済が減速し、わが国の成長ペースも鈍化する見通しである。その後、海外経済の緩やかな成長に伴い、わが国経済も成長率を高めていくと予想している。



実質金利は低い水準にあり、緩やかな金融環境は維持される。経済・物価の見通しを見極めながら、慎重に金融政策を運営していく。海外経済においては、トランプ政権下で政策の不確実性が高い状況が続くと見られ、国際情勢を注視しつつ日本経済への影響を見極める必要がある。

新規事業

## 環境人材育成講座

モノづくり企業における環境関連業務は、ESG経営に関わる環境配慮への対応から、大気、水質、廃棄物、エネルギーなどの環境管理と非常に幅が広く、中長期的な人材育成が各社共通の課題である。本講座はモノづくり企業における環境問題に対応できる人材の育成を目的として、年間全7回を概ね月1回ペースで開催。

既に、第1回から第3回では、モノづくり企業として知っておくべき環境関連法規を学び、第4回は廃棄物処理施設の見学を通じて廃棄物処理のフローを学んだ。

第5回以降の後半3回で、企業価値を高めるESG経営に不可欠な3つの環境キーワードが解説される。

### 第4回開催概要報告

会場：(株)京都環境保全公社

伏見環境保全センター及び瑞穂環境保全センター

開催日：令和7年10月8日 参加者：13名

午前には伏見環境保全センター（京都市伏見区）を訪問、廃棄物搬入・廃棄物受入・選別・破碎・リサイクル・焼却・発電等蒸気利用の各施設を見学し、廃棄物処理フローと廃棄物削減の必要性を学んだ。

午後は瑞穂環境保全センター（京丹波町）に会場を移し、廃棄物の管理型最終処分場（埋立処分場）・排水処理施設を見学。適正かつ適切に管理された廃棄物処理の最終工程に対する認識を新たにしました。

### 第5回開催概要報告

講師：麻埜 豊彦 氏 KES環境機構 理事・主幹審査員、(株)環境ビジネスエージェンシー コンサルタント

開催日：令和7年11月5日 参加者：14名

カーボンニュートラルとは何か、日本と世界の動向、企業が取べき対応などについて解説があった。講義の後、3班に分かれてグループ討論を実施。所属企業の取組を参加者自身が説明し、今後に向けたあるべき姿を話し合うことで、カーボンニュートラルへの理解を深めた。

### 本講座の今後の予定

回	日時	内容
6	12/ 1 (月) 14:00～16:30	サーキュラーエコノミー ・従来のリニアエコノミーの問題 ・サーキュラーエコノミーの目的 ・資源循環の手法 ・海洋プラスチックごみ問題 ・拡大生産者責任 など
7	令和8年 1/27 (火) 14:00～16:30	ネイチャーポジティブ ・ビジネスとの接点 ・企業参加の森づくりの意義 など

## 生成AI 明日から生かせる業務活用術

開催日：令和7年7月25日 参加者：20名  
 講師：デロイト トーマツ リスクアドバイザー合同  
 会社 マネージングディレクター・日本ディー  
 プラーニング協会人材育成委員 山本優樹氏

機械学習や深層学習といったAIの基盤技術の解説がなされ、中でも生成AIは従来の特化型AIに対し「言葉で制御できる汎用性」を備え、誰でも容易に活用できる点が説明された。その一方で、情報漏洩や誤情報拡散など新たなリスクが存在することも指摘され、リスクマネジメントの重要性が示された。

続いて、文書作成、要約、契約書レビュー、カスタマーサポート、経営分析、人事評価、マーケティングなど多岐にわたる業務での活用事例を紹介。導入成功の鍵は「人材」「ルール」「業務」「組織」「システム」の5つの観点にあるとされ、特にプロンプト設計を通じた人とAIの連携が有効であると強調された。

また、検索拡張生成（RAG）やマルチモーダル処理など最新技術の応用、さらに今後はAIエージェントやローカルLLMの発展により社会実装が一層加速する展望が示された。

講演では多くのデモンストレーションを交えて進められたこともあり、参加者の理解が深まった。アンケートでは参加者全員が「満足」・「ほぼ満足」と回答し、生成AIの業務活用への期待が高まる有意義なセミナーとなった。

## サイバーセキュリティ対策セミナー 2025

開催日：令和7年9月4日 参加者：78名  
**「サイバーレジリエンス力を強化する  
 ～大切な事業を継続するために、正しく知り 全員で守る～」**

テーマ1 「世界で起きているサイバー攻撃の実態と  
 今できるモノづくり企業での対策」

独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）産業サイ  
 バーセキュリティセンター 調査分析部サイバーイ  
 ンシデント調査室 室長 中山 顕 氏

モノづくり企業に対するサイバー攻撃は深刻化しており、近年はAIを悪用するなど高度化・悪質化し、どの企業でも被害に遭う可能性がある。アサヒグループホールディングスへのランサムウェア攻撃が記憶に新しいように、被害に遭うと操業停止や重要情報が漏洩するなど企業活動にとって深刻な打撃を被る。サイバーセキュリティ対策は、今や従業員全員で継続して取り組むべき最重要経営課題の一つとなっている。

最初に、中山氏から海外で起きたサイバー攻撃の詳細な説明と、サイバーリスクの高まりにともなう国の動き及び中小企業で段階的に取り組んでほしいことの解説があった。

テーマ2 「サイバー犯罪の現状と対策」

京都府警察サイバー対策本部 サイバー企画課 官民  
 連携推進係 警部補 吉田 卓司 氏

京都府におけるサイバー犯罪の現状と情報セキュリティ対策の基礎に関して、ランサムウェア感染のデモを含めてお話いただいた。

参加者からは、「IPAのサービスを知ることができて有益であった」、「社内で実施するサイバーセキュリティ教育に活かしたい」などの声があり、大変好評であった。

## BtoBでも活用できるブランディングセミナー

開催日：令和7年10月7日 参加者：23名  
 内容：BtoB製造業に必要なブランディングを学ぶ  
 ～本物を作る京都の製造業だからこそ求められる、見せ方の変革～

講演① 「BtoB企業におけるブランディングの誤解  
 と実践に向けた要諦」

講師 九州産業大学 商学部教授 牧口 松二氏

BtoB企業は、「そもそも購買検討候補に挙がるか」が勝負であり、その選択肢に入るための心の入り口「CEP（Category Entry Point）」の重要性とその設計について説明。

続いて新規顧客を取り込むためのメンタルアベイラビリティ（想起されやすさ）とフィジカルアベイラビリティ（買い求めやすさ）についても解説。この3つをつなぐ設計が、ブランディングであるとされた。

講演② 「BtoB企業におけるブランディングとしての  
 の最初の一步と、ROI（投資収益率）の考え方」

講師 (株)FIELD MANAGEMENT EXPAND  
 執行役員/マネージングディレクター 荒井 友久氏

新規顧客獲得に要した費用を分母、当該顧客から得られた利益を分子としてROI（投資収益率）を算出する。その上で、牧口氏の講演をもとに「ブランディングとは戦略的に顧客を増やす取組である」と定義された。それによりROIも計算しやすくなるとして、実際に計算式を示しながら解説された。

参加者からは、「CEPの大切さが理解できた」「新たな知識を身につけることができた」などの感想が寄せられ、有意義なセミナーとなった。



## ゴルフ同好会（KIG）だより

令和7年度第2回例会（第250回例会）結果

と き：令和7年9月9日  
 ところ：田辺カントリー倶楽部  
 参加者：27名（内 シニア7名）

優勝 櫻井 勲氏（オリオン(株)）  
 準優勝 古澤志津夫氏（三幸総研(株)）  
 3位 森本 元気氏（株MIRAI）  
 BG賞 古澤志津夫氏（三幸総研(株)）



## シリーズ 魅力ある職場づくり～会員企業の取組紹介～その10

本年度も引き続き、職場の魅力向上に努めておられる会員の状況をご紹介します。

第10回は(株)積進を訪問して、お話を伺いました。

(取材日：令和7年9月19日)

### (株)積進

創業：昭和40年（1965年） 資本金：4,800万円

社員：99人

住所：京丹後市峰山町長岡1750-1

#### お話を伺った皆様

管理・総務課長 圓實智弘氏

機械課シニアエンジニア 村上翔平氏

#### 事業概要

産業用装置の設計・製造、精密部品加工、理化学機器の開発などを行っています。取引先は半導体関係や医療関係、航空宇宙関連の企業です。当社は少量多品種、中でも試作品製造を得意としており、設計から製造、組立までの一貫対応が強みです。



圓實智弘氏

#### 女性活躍と子育て支援

パート社員も含めると女性社員が約4割を占めています。

以前の製造現場は、全員が男性社員で1人ひとりが加工技術から機械操作、書類整理の全業務を担当していました。しかし、1人では出来ることが限られているため、業務を細分化し、女性の製造部門への積極的な登用を始めました。加工機械の操作や書類等の支援業務などの業務に多くの女性社員が活躍をしています。

製造現場で働く女性社員の多くはパート社員です。もちろん正社員もおられますが、子育てのために、今はパート勤務で働きたいと希望される方もおられます。しかし何年か経ち、家庭環境の変化によってフルタイム勤務で働くことを希望される方も出てきます。パート勤務からフルタイム勤務を希望される方には、社内研修を行い、準社員へステップアップしていただきます。

育児休暇は男女関係なく取得されています。男性社員では3人の育休取得実績があります。1人目が1年間取得しましたので、後に続く人が取りやすくなりました。当時の社長が、「気持ちよく育休を取れるように、取り難くなることは絶対に言わない」ことを厳命したと聞いています。今では男女問わず育児休暇が取得しやすい雰囲気になりました。

有給休暇は、2時間、半日でも取得できますので、子供を送ってからの出社や早めの迎えなどにも活用してもらっています。

#### モノづくり人材の確保

新入社員採用には非常に苦労しています。そこで、新卒社員採用活動の他に、パート社員の採用、育成に注力しています。

製造業は理系の仕事でしょってよく言われるのですが、当社にはそんな考え方はありません。理系文系に関係なく、ものづくりに興味がある人であれば育てたいと考えています。実際に、図面も読めず金属の種類も分からない方でも、興味さえあれば、機械を使った加工業務が出来るように指導しています。設計業務は難しいかもしれませんが、それ以外は“ものづくりに興味があること”が大切だと考えています。

#### 業務改革

全社員に1台ずつiPadを支給しており、各種資料はiPadで見えるようにしています。専門図書などでデータ化すると読みにくい資料は、読みやすく編集しています。

会社としては、暗黙知を形式知に変換するなど、メリットの方が大きいと考えています。そのため、個人のノートにメモは書かず、iPadにある共有情報を加筆修正することを徹底し、情報を完全に共有するようにしています。

#### 特徴的な休暇制度

##### ◇リフレッシュ休暇制度

正社員対象に有給休暇取得を利用した休暇制度があります。リフレッシュ休暇を利用し、旅行、子供との勉強や遊びなど、自己啓発に役立てて欲しいとの思いから一時金を支給します。休む時期は本人の希望を優先し、所属部署や所属長と調整したうえで、該当年度中に取得してもらいます。対象社員のうち、8～9割の社員は取得しています。

##### ◇安心休暇制度

未消化で失効した有給休暇を、最大40日まで積み立てられる制度を設けています。長期欠勤をせざるを得ない場合などで使えるようにしており、例えば、がんの治療で半年ぐらい休む場合、有給休暇を使い切り、本来は欠勤ですが、これをカバーできるように運用しています。



## 叙勲の栄

本年度の秋の叙勲・褒章が発令され、本会関係では次の方がその栄に輝かれました。  
会員の皆様とともに、心からお祝い申し上げます。



### 旭日重光章御受章 塚本能交氏

(株)ワコールホールディングス  
名誉会長 本会 常任理事



### 旭日小綬章御受章 白波瀬 誠氏

(京都中央信用金庫 会長)



### 旭日双光章御受章 鈴鹿且久氏

(株)聖護院ハッ橋総本店 会長)

## 新入会員ご紹介

(9月2日、第351回理事会で承認されました。)

### 〈賛助会員〉

#### 新菱冷熱工業(株) 京滋支店

支店長 中 森 伸

〒604-0847 京都市中京区烏丸通二条下る秋野々町513  
TEL.075-223-2648 FAX.075-256-2174

空気調和設備、給排水衛生設備

#### ダイキンエアテクノ(株) 関西支店京滋営業所

京滋営業所 エリアマネージャー 山下 正彦

〒612-8414 京都市伏見区竹田段川原町246  
TEL.075-643-8701 FAX.075-643-8490

空気調和設備の設計、監理、施工、メンテナンス

## 訃報

### ■畑 正高氏 (株)松榮堂 代表取締役社長)

8月9日、ご逝去されました。(享年71歳)

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

## 本会会員関係

### 令和7年度京都府産業功労者表彰 御受彰

- |                  |        |
|------------------|--------|
| ◇ニチコン(株) 会長      | 武田 一平氏 |
| ◇オムロン(株) 名誉顧問    | 立石 文雄氏 |
| ◇田中精工(株) 会長      | 田中 光一氏 |
| ◇(株)京都銀行 前会長     | 土井 伸宏氏 |
| ◇(株)日進製作所グループ 会長 | 平野 卓氏  |

### 令和7年度京都中小企業技術顕彰 御受彰

京都中小企業技術大賞

- ◇(株)最上インクス (社長：鈴木 滋朗氏)

京都中小企業優秀技術賞

- ◇NKE(株) (社長：中村 道一氏)

会員各位とともに、心からお祝い申し上げます。

すべての「旅したい」を応援します。



KNT-CT ホールディングス株式会社



## 京都工業会 ニュース No.424

発行 2025年11月25日  
公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地  
京都経済センター 6階

TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065  
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>  
E-mail : [info@kyokogyo.or.jp](mailto:info@kyokogyo.or.jp)

